今城塚古代歴史館新春書き初め会　**課題字説明**

テーマ「新池遺跡を書く」

新池遺跡は高槻市上土室にある埴輪生産工場の跡です。今城塚古墳など近隣の古墳に並べる埴輪を作っていました。新池遺跡に関わる言葉を書いてみましょう。

課題字の説明

はにわ

いましろ　たろう

【はにわ（埴輪）】

偉い人の墓である古墳に並べられた土で作った焼き物です。古墳の上や周りに置かれ、古墳を飾るとともに、死者の魂を守ったり、古墳が神聖な場所であることを示したりする役割があったと考えられています。

窯跡

今城　太郎

【窯跡（かまあと）】

斜面を利用して埴輪を焼く窯が作られ、調査で18基みつかっています。

斜面に溝を掘って粘土で壁と天井を作るものと、斜面をトンネル状に掘り抜いて作るものがあります。

斜面下の焚口から薪を入れて燃やし、内部を高温にして、埴輪を大量に焼く仕組みです。

新池遺跡

今城　太郎

【新池遺跡（しんいけいせき）】

新池遺跡は、5世紀前半から6世紀前半にかけて、約100年間操業した埴輪工場の跡です。埴輪を作る工房や焼くための窯、工人（職人）の住居がみつかっています。

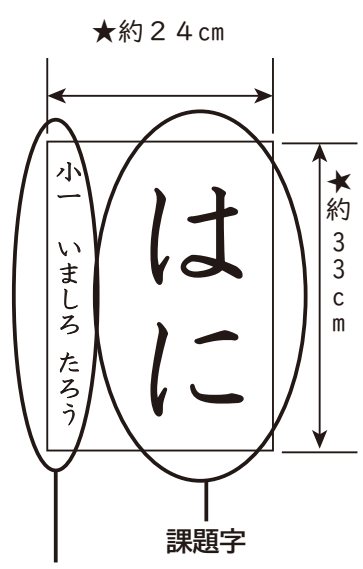
新池遺跡で作られた多くの埴輪は、太田茶臼山古墳（茨木市）や今城塚古墳をはじめ、周辺の古墳に運ばれ、並べられました。

書き方見本

※課題字に含まれる文字なら１字でもＯＫ！



★半紙のサイズ



※学生でない方は
お名前だけでかまいません